

# 埼玉県防災士会研修資料

## 2-2 災害時の情報収集・通報要領

### B案

2023・09

K1

# 災害時の情報

- 災害時の防災情報とは何を指すか？【発災後を考える】
- 防災士として地域の防災活動に携わるわれわれにとって
  - (1) 事後対策として必要な活動は何かを示す情報
  - (2) 被害を免れたり、二次災害を回避するために必要な情報
- 自分たちが居住している地域内の出来事は、距離としては近いにもかかわらず、その詳細な情報は向こうからは入ってこない
- ここでは、災害時の情報収集と通報について、消防団や各自治体並びに市町村、自主防災組織等のマニュアルを参考に、「情報班の活動」とは何かを中心に見ていく

# 災害時の情報収集のための条件

## (1) 組織と役割の明確化

- ・構成メンバーの意識（士気）
- ・指揮系統の存在
- ・必要な情報の明確化（知識）

## (2) 情報収集に必要な器具や機器の備え

- ・最低限必要な器具や機器とその保管（どこに、何が、いくつ）
- ・使用法の訓練

## (3) どこ(市町村、町会・自治会)が、どのような情報を求めているかの事前理解と相手に分かりやすい伝達の仕方

## (4) 知識とシステムなしには、大事な情報も生かされない

# 行政(県・市町村)が入手したい情報

- 1 人的被害（死者、行方不明者、負傷者数等）
- 2 建物被害（家屋の倒壊、損壊、床上・床下浸水等）
- 3 土木施設の被害（道路、橋梁等の損壊）
- 4 ライフラインの状況（電気、ガス、水道等）
- 5 土砂災害の状況（がけ崩れ、地滑り等）
- 6 土地の状況（液状化、冠水等）

※地域の人が、実際に現地の状況を見て提供する情報

※受け手が特定しやすい場所(所在地)の明示がポイント

※市町村の災害対策本部への「報告様式」を一度見ておく

※情報収集は、エリアの担当者を決め、複数のメンバーで確認

# 災害情報（発信）

- ・発信者と「発信時刻」
  - ・災害現場の所在地(目標物)
  - ・現場の状況
  - ・負傷者の有無と程度
  - ・今後予想される状況（事態）
  - ・現場での措置
  - ・受信者名(先方)の確認
- ※ 情報収集・発信には必ずメモをとる（記憶より記録）
- ※ 被災者がいる場合、その人が困っている様子も具体的に報告
- ※ 電話が使えない場合を想定し、代替手段を用意しておく

# 情報収集の道具

- 情報収集に必要な機器の確保  
(メモ用紙、ヘルメット、ヘッドライト、ライト、拡声器、電池、トランシーバー、防塵マスク等)
- 非常用電源 (発電機、バッテリー)
- 現場での確認作業は一人では行わない (必ず2人以上で)
- 情報収集用の自転車、バイク
- 飲料水 (水分補給)
- 収集した情報の連絡先は事前に確認し、発信の窓口は一本化する

# 情報収集の仕事（1）

- ・自分と仲間(バディ)の安全確保を最優先
- ・視覚、臭覚、聴覚等の感覚による情報収集
- ・現場付近にいる住民、関係者からの聞き込み
- ・関係者とは  
    建築物所有者 建物管理責任者 居住者 防火管理者  
    警備員 宿直責任者 客 従業員 など
- ・聞き込みに当たっては、自分の立場(自主防災部員等)を告げる
- ・聞き込みの際には制服またはビブス、腕章等を着用する
- ・情報提供者の氏名、年齢、職業、要救助者との関係を可能な限りで確認し、連絡先（携帯電話番号）をメモする。

# 情報収集の仕事（２）

## 【水害時の情報収集項目】

- ・現在の雨量・水位、 上流域の雨量、 今後の降雨に関する気象情報、 地形・地質の状況、 住宅浸水地域の状況など

## 【地震時における情報収集項目】

- ・地域の被災状況（火災、土砂崩れ、倒壊家屋、道路状況など） 地域の緊急通報の状況 住民の避難状況  
避難ルートに関する情報

## 【逃げ遅れ情報】

- ・情報がない場合には、逃げ遅れた者がいると考えて対応  
また、一度避難した人が、戻る場合があることも想定する



# 情報収集の仕事（3）

- 発災後の第1報は、市町村の窓口（危機管理課等）に入れる
- 避難所開設後の各機関への連絡は、行政職員が行う
- 避難所に避難して来ている避難者からも情報を収集する
- 近隣の避難所とも情報を交換し、地域的情報を把握する
- 近隣の避難所と協力する（マンパワー、資機材など）
- 入手した情報は、発信元を確認し、情報のトリアージを行う
- 対応の優先順位が変化することもあるので、入手した情報は漏らさず記録する

# 必要な情報(再)

- ・安否情報
  - ・被害情報
  - ・救護所の設置状況
  - ・病院や医療機関の開業状況
  - ・福祉避難所の受け入れ情報
  - ・災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣情報
  - ・ライフラインの復旧状況
  - ・葬儀、埋葬に関する情報
  - ・水・食料などの生活物資の配給状況
  - ・鉄道、道路など交通機関の復旧状況
  - ・生活関連情報(商業施設や銭湯の開店情報等)
- ※ 情報はできるだけ早く整理する。
  - ※ 情報の発信元と発信日を明記する

# 情報収集の仕事（４）

- 避難所以外の場所に滞在(指定避難所以外の場所、自宅避難者を含む)している人々を戸別訪問する
- 自宅の様子を見に行く避難所生活者に、近隣の自宅避難者への声掛けを依頼する（避難者としての登録を勧めるため）
- 避難所で生活していない人も、食料や配給物資の提供、情報提供などの支援を受けることができることを周知する
- 聞き取った情報は、プライバシー保護の観点から、最低限必要な範囲で避難所運営委員や各活動班長、組長とのみ共有する

# 情報の伝達

- 対応を要する情報と周知が必要な情報を大別する
- 収集した情報はすぐに整理・分類し、情報掲示板に張って、避難所利用者全員に伝わるよう伝達する
- 避難所以外の避難者も見ることができるように、掲示場所を工夫する(内外2か所など)
- 重要な情報は、組長(運営委員会組織)が戸別訪問で伝える

# 情報掲示板の管理(1)

- ・情報掲示板は、避難所の外からも見えるように2箇所設置する
- ・掲示物の張り出しのために、事前に大まかなレイアウトを考えておく
- ・情報の分類を「札」で作成し、情報量によって掲示スペースの調整が可能になるよう工夫する

(例) 「避難所のルール」 「避難所運営委員会の組織図」

「最新情報」 「ライフライン情報」 「市町村からのお知らせ」

「生活情報」 「伝言板」 等

# 情報掲示板の管理(2)

- 情報掲示板の管理は、情報班が行う
- 掲示物には、必ず掲示の日時を入れる
- 期限切れの情報をいつまでも貼っておかない
- 掲示希望の申し出は情報班が受け付け、内容を確認したうえで情報班が掲示する
- 掲示板からはずした掲示物は、分類してすべて保管する

# 入手した情報の整理と情報への対応

## クロノロジー（chronology）の活用例

時間（情報収集受理時刻）	発信元 ⇒発信先	情報の概要	対応措置の記録
12:00	現場⇒本部	現場における交通規制の提案	待機を指示
12:10	本部⇒警察	交通規制の要請	
13:00	A社⇒本部	15:00に●●到着予定	物資部に保管の準備をを指示

# クロノロジー（1）

- chronologyの元の意味は「年代学」
- 災害におけるクロノロジーは、時系列に出来事をまとめること
- 情報集約、整理の技術
- 情報を、時刻と共に記録する
- 本部に入った情報及び指示事項を記載する
- 発信元、発信先を明記する
- 専属の記録員をおいて、リーダーが記載を指示する
- 定期的に本部要員で共有し、対応方針を決める
- 予定は、予定が立った時刻を記入し、予定事項や時刻を記入する



# クロノロジー（2）

- ・定期的に電子化して記録する（デジカメ等）
- ・付箋紙を張り付けたりした場合には、破棄することなくすべて保管する
- ・情報の記載に当たっては、色マジックで書き分けると分かりやすくなる
  - 赤マジック…緊急対応が必要なもの
  - 青マジック…対応状況
- ・必要に応じて「地図」や付箋紙を貼る
- ・HUGゲームの「イベント情報」の整理に使うと訓練になる
- ・クロノロジーのメリット（情報の共有化）
  - (1)何が起きているのか
  - (2)現在の活動の内容
  - (3)本部の方針
  - (4)発生している問題

# クロノロジー（3）

- ・情報量が多い場合は、項目や活動ごとに分けて整理して記入する（情報量は、時間の経過に伴い変化する）

安否確認班

救出救護班

避難所開設・運営班

物資班

…

# 災害時の連絡手段

- 1 有線電話（固定電話）…災害時は使用制限
- 2 有線電話（公衆電話）…災害時も使用可能
- 3 携帯電話…災害時は使用制限

（ただし、プロバイダーによってはネット使用可能）

## 4 無線通信

- （1）特定小電力無線(トランシーバー)…町内会連絡等で有効
- （2）業務無線…費用高い 陸上・海上・航空無線免許必要
- （3）MCA (Multi Channel Access System)無線…行政が使用
- （4）アマチュア無線…通常時私用不可 災害時使用可  
アマチュア無線資格が必要

# 緊急通報

【1】110番通報

【2】119番通報

【3】市町村の危機管理窓口

どれか、体験したことがありますか？

本番は、意外に難しい

# 災害（インシデント）の種類

## 自然災害

地震、雷、風水害(台風、洪水、竜巻、高潮)、土砂災害(土石流、がけ崩れ、地滑り)、雪害(吹雪、雪崩)、ひょう、津波、噴火、高温(熱波、猛暑)、低温(冷夏、厳冬)、山火事、干ばつ、隕石等

## 人為(技術)災害

交通事故、列車事故、飛行機事故、海難事故、水難事故、危険物資流出事故、原子力事故、食品事故、医療事故、大気汚染、土壌汚染

## 人為(故意)災害

戦争、テロ、暴動、犯罪

# 災害発生のお知らせ

- 市町村の窓口（代表電話番号、危機管理部門直通）
- 自分が通報する必要があるかをしっかり見極める(迷ったら通報する)
- 災害の種類をしっかりと伝える
- 地象災害、気象災害は気象庁などの観測に基づく予報、警報を参考に
- われわれ防災士が関わるとしたら、土砂災害や人為災害など、限定された現場にたまたま遭遇した場合か？

## ◆災害現場で**M E T H A N E**の略語で使われている方法(参考)

- ・日赤の救急救命センターでも使われている
- ・災害時の通信において、必要な情報を漏れなく伝達・共有するのに有用と考えられる情報内容の頭文字を取ったもの。この順序で伝達していけば漏れなく伝達でき、聞く側も聞き漏らしがなくなる
- ・情報伝達を効率化するための合言葉

**M**… My call sign / Major incident

(自分は誰かを伝える / 大災害発生の宣言)

「埼玉県防災士の〇〇〇〇です。大規模な土砂災害が起きています」

**E**… Exact location

(正確な場所)

「場所は国道〇号線の〇市〇町付近。近くに〇小学校があります」

**T**…Type of incident  
(災害の種類)

「土砂災害です。道路わきの斜面が崩れて、大型の観光バスが1台土砂に流され、道路わきの川原に転落しています」

**H**…Hazard

(現場で活動をする際に危険と考えられること)

「雨が降り続いて、いつまた土砂災害が起きるか分からない状態です  
川の水かさも増えています」

**A**…Access

「〇市方面に向かう下り車線は渋滞し長い車の列ができています。

▲市方面から来てください」

**N**…Number of casualties

(傷病者の数)

「大型の観光バスなので最大50名程度の傷病者が見込まれますが、  
傷病者数、重傷者数等については現在不明です」



## E... Emergency services present and required

(緊急対応機関の現状と今後必要なもの)

「現在、警察に交通規制を依頼中。パトカーや救急車を依頼中ですが、まだ到着していません。今後DMATなどの出動要請も必要になると思われます。」

M	所属・氏名	
E	場所	項目を描いたメモ用紙を ふだんから持ち歩く
T	災害の種類	
H	危険	
N	傷病者数	
E	現状・要望	

# トランシーバーの使い方

- ・スマホは大規模災害時にはつながりにくい
- ・特定小電力無線（トランシーバー）
- ・免許・登録不要
- ・交互通信、一斉通信、グループ通信が可能
- ・【使い方】
  - ①電源を入れる➡
  - ②音量を調節する➡
  - ③チャンネルを合わせる➡
  - ④送信ボタンを押しながら話す➡
  - ⑤自分が話し終わったら、「どうぞ」と言って送信ボタンを話す
- ・使用の決まりを作成する
- ・定期的な訓練
- ・個人情報への配慮



# 電源確保

- 1 充電式モバイルバッテリー
- 2 電池式モバイルバッテリー
- 3 マイカーからの充電  
(シガーソケット式)
- 4 ポータブル電源 (大容量)
- 5 ソーラーチャージャー
- 6 発電機



ご清聴

ありがとうございました

ございました

## 参考資料

- 1 「千葉県「災害時における避難所運営の手引き」  
(千葉県HP)
- 2 消防団員の情報収集・伝達訓練 (総務庁消防庁)
- 3 METHANE Report (日本赤十字社)
- 4 防災士教本(2022年版)P.138～ 「災害情報の活用と発信」
- 5 その他、各都道府県の「避難所開設・運営マニュアル」、及び  
市町村の「避難所開設・運営マニュアル」